

地域とともに 『有機栽培茶』を世界へ

有限会社大塚園

有限会社大塚園（川南町）は、平成9年に設立しお茶の栽培・製茶及び店舗販売を行っている。平成26年から、スイスへ煎茶の直接輸出を開始し、現在では茶商経由でドイツや米国等へも輸出を展開している。

海外の富裕層では有機抹茶の需要があるが、原料の有機JAS認証の碾茶（抹茶の原料）が不足しているため、令和4年3月から19.2haを有機栽培に転換し、令和7年4月に有機JAS認証を取得した。

同社は、茶殻の出るリーフタイプ（茶葉）から丸ごと栄養が取れる碾茶製造に転換するため、「令和5年度補正農産物等輸出拡大施設整備事業」を活用して碾茶加工施設を整備。

有機栽培を行うに当たっては、特に除草作業に労働力の確保が必須となる。現在はインドネシアの特定技能外国人を2名雇用しているが、令和8年からは2名増やして4名とし、賃金の設定も含めて労働者の環境整備を行う。

併せて、省力化や機械化を推進し、労働者からも選ばれる農場を目指している。



碾茶工場

海外の取引先は、継続性のあるパートナーを求めているため、若い経営者を好む傾向がある。そのため、若手社員の勉強会や研修を行い、国内外の規制や基準を学び、変化する農業スタイルに対応できる経営に取り組んでいる。

今後は、栽培面積を現在の22haから30haに拡大し、海外から引き合いが強い抹茶の原料である碾茶に絞って輸出。

品種については、現在の「やぶきた」から、病気に強く味も良い「暖心37」や「つゆひかり」へ転換中である。



抹茶の原料（碾茶）



抹茶

※詳しい輸出取組は宮崎県拠点WEBサイトをご覧ください。

宮崎県拠点地方参事官室

TEL：0985-24-2365（内線272）

本紙の記載内容等についてのご質問、農政に関すること、事業や制度への質問・ご意見等がございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

（〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17）

